

基本情報技術者

平成 30 年度秋期本試験の分析 と 次回試験への対策法

1. 基本情報技術者試験とは

(1) どのような試験なのか

基本情報技術者試験とは、情報処理技術者試験制度のレベル 2 に相当し、

情報システムを構築・運用する「技術者」から

情報システムを利用する「エンドユーザ(利用者)」まで、

IT に関係するすべての人を対象とした試験

です。

【情報処理技術者試験 資格取得のメリット】

(1) 情報処理技術者としてのスキルを有していることが公的に証明されます。

(資格保有者が多い企業は、顧客から信頼される)

(2) IT 業界で活躍する方が、現在どのレベルの専門知識を有するかが立証されます。

☆ 基本情報技術者は、共通キャリア・スキルフレームワークの「レベル 2」に相当する資格。

(3) 上級資格受験のための基礎を習得できます。

(4) 就職活動を行う上でのアピール材料となります。

(5) 資格手当や一時金など報奨金制度、昇級条件、(学生なら)履修の単位や特待生など

(2) 試験形式

① 午前試験

試験時間：2 時間 30 分

出題形式：マークシートで四択 80 問、全問必須(1.25 点×80=100 点)

合格基準：満点の 60% (48 問正解で午前試験合格)

出題比率：1 問程度の増減はありますが、以下の割合で出題されます。

テクノロジー	マネジメント	ストラテジ
50	10	20

② 午後試験

試験時間：2 時間 30 分

出題形式：マークシートで多肢選択式(複数の選択肢から 1 個以上を選択)

13 問中 7 問を解答(次表を参照)

合格基準：満点の 60%

③ 合格のためには

午前試験、午後試験の両方で合格基準を満たさなければなりません。

午後試験の出題内容：事例問題(応用問題)

問番号	テーマ		配点	解答数・出題数		
1	情報セキュリティ		12点	必須（12点）		
2～4	ハードウェア	4分野から 3問を出題	各12点	4問選択/6問出題 (12×4=48点)		
	ソフトウェア					
	データベース					
	ネットワーク					
5	ソフトウェア設計					
6	マネジメント					
7	ストラテジ					
8	データ構造とアルゴリズム		20点	必須（20点）		
9	C		各20点	1問選択/5問出題 (20×1=20点)		
10	COBOL					
11	Java					
12	アセンブラ					
13	表計算					

2. 平成 30 年秋：午前試験の分析

(1) 出題テーマの比率

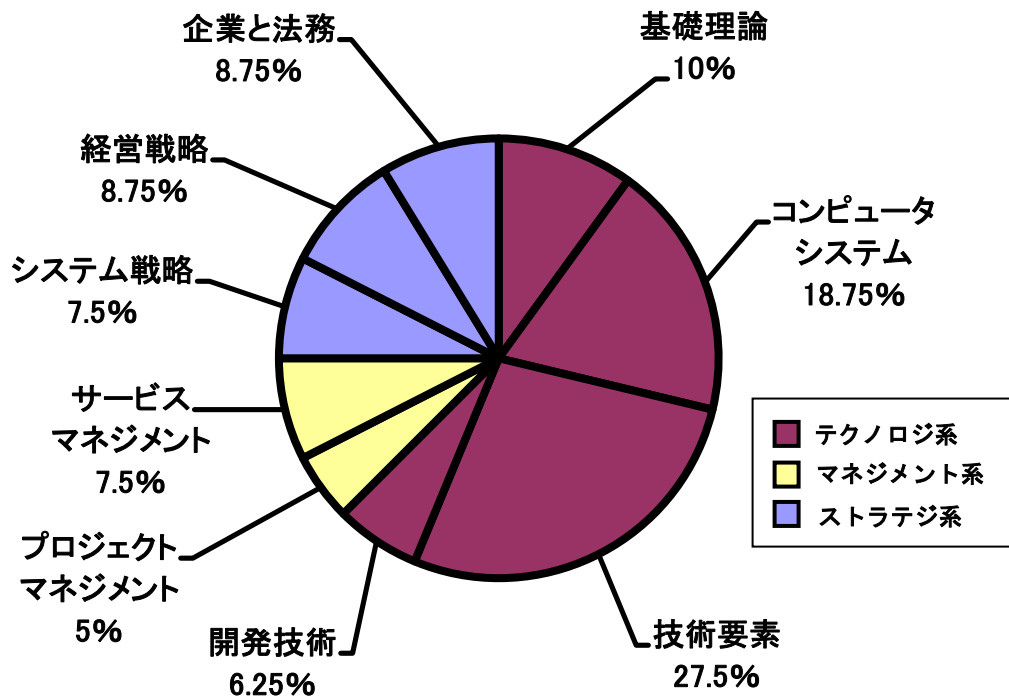
午前試験の分野ごとの出題数は、

テクノロジー系：50 問 マネジメント系：10 問 ストラテジ系：20 問

となっており、例年通りの出題比率になっていました。

午前試験の大分類別出題数及び出題率については次の通りで、ストラテジ系で1, 2 問の変動(経営戦略が減少, 他が増加した)はありましたが, その影響は少ないでしょう。

大分類別出題数	出題率	出題数
基礎理論	10.00 %	8 問
コンピュータシステム	18.75 %	15 問
技術要素	27.50 %	22 問
開発技術	6.25 %	5 問
プロジェクトマネジメント	5.00 %	4 問
サービスマネジメント	7.50 %	6 問
システム戦略	7.50 %	6 問
経営戦略	8.75 %	7 問
企業と法務	8.75 %	7 問



大分類別で出題数が多い「技術要素」の主要分野の出題数は、
データベース：4 問、ネットワーク：5 問、**情報セキュリティ：10 問**
となっています。情報セキュリティだけでマネジメント系とほぼ同じ出題数ですから、
「情報セキュリティ」が午前試験の重要分野であることがわかります。

(2) 問題形式について

問題形式別に分類すると、計算・事例問題(「計算を含む問題」と「事例が提示される問題」)が、前回(平成 30 年春)よりも多く出題され、その割合は全体の約 35%(前回：約 28%)でした。分野別にみると、テクノロジー系及びストラテジ系で計算問題がそれぞれ前回より増えて、マネジメント系でも前回と同様に計算問題が 3 問出題され、例年よりも多くなっています。その影響から、用語・正誤問題(「用語を問う問題」と「正しい記述を選ぶ問題」)は、正誤問題の出題数が前回より減少していました。

今回の午前試験は、計算・事例問題が増えたため、前回よりも解くのに時間がかかる問題セットであったといえます。

(3) 過去問題の流用について

FE の過去問題からの流用は約 40 問あり、例年通りほぼ半数を占めています。特定の年度・期の過去問題から集中して流用されるといった傾向はあまり見られず、平成 21 年から平成 29 年春期までを中心に幅広い年度から流用されていました。

各分野で平均して FE の過去問題がみられますが、基礎理論及びシステム構成、ハードウェアでは新作問題が多く、見慣れない問題が並んでいる印象を受けます。また、情報セキュリティでは、ほとんどが情報セキュリティマネジメント試験(SG)などの他区分からの流用及び新作問題で占められており、FE からの過去問題が 1 問しかありませんでした。

また、今回の午前試験では、「前半のテクノロジー系が古い年度、後半マネジメント・ストラテジ系が近い年度からの流用が多め」という傾向がみられませんでした。この 10 年でマネジメント系及びストラテジ系の過去問題が十分に揃ってきたためと思われます。

(4) 難易度の特徴

[テクノロジー系]

テクノロジー系では、新出用語の出題割合がやや多めで、機械学習、二次電池、自然言語インタフェース、LTE、JPCERT/CC、AES-256、セキュアブート、委譲などが出題されました。これらの「知らないと解けない難問」が含まれているという構成は、ここ最近の傾向が継続していると考えます。また、既出テーマでも、Java の特徴や IoT の構成要素を問う問題などの単純そうに見えて選択肢が悩ましいひねった問題や、キャパシティブランニングの作業手順などの熟慮を要する新作問題がありました。分野別でみると、システム構成、ハードウェア及び情報セキュリティは FE からの過去問題の流用が少なく、見慣れない問題が多く並んでいたため、難易度が高めでした。

さらに、計算問題の出題数が前回及び前々回より増加したこともあり、過去問題の流用や類似問題の出題も多くありましたが、テクノロジー系全体としての難易度はやや難しめであったといえます。

問3 AIにおける機械学習の説明として、最も適切なものはどれか。

- ア 記憶したデータから特定のパターンを見つけ出すなどの、人が自然に行っている学習能力をコンピュータにもたせるための技術
- イ コンピュータ、機械などを使って、生命現象や進化のプロセスを再現するための技術
- ウ 特定の分野の専門知識をコンピュータに入力し、入力された知識を用いてコンピュータが推論する技術
- エ 人が双方向学習を行うために、Web システムなどの情報技術を用いて、教材や学習管理能力をコンピュータにもたせるための技術

問8 Java の特徴はどれか。

- ア オブジェクト指向言語であり、複数のスーパークラスを指定する多重継承が可能である。
- イ 整数や文字は常にクラスとして扱われる。
- ウ ポインタ型があるので、メモリ上のアドレスを直接参照できる。
- エ メモリ管理のためのガベージコレクションの機能がある。

[マネジメント系]

マネジメント系では、前回と同様に計算問題が多く、プロジェクトマネジメントに計算問題が2問と事例問題が1問、サービスマネジメントに計算問題が1問出題されました。そのため、例年よりも解くのに時間がかかったと思われます。計算問題はどれも過去問題の流用だったので、演習経験があればより解き易かったでしょう。サービスマネジメントの他の問題が他区分の過去問題の流用と新作問題でしたが、難問といえるものはなかったため、計算問題を考慮しても全体では標準的な難易度であったと考えます。

[ストラテジ系]

ストラテジ系では、計算問題が例年通りの出題数であったため、前回よりは時間のかかる構成になっています。ただし、過去問題の流用も多く、新出用語が0to0のみであったことを加味すると、難易度は標準的であったといえます。

午前全体では、前回と同様に過去問題の流用や類似問題が例年どおり多くみられましたが、計算や事例系の問題が多く出題されていたので、時間のかかる構成になっています。また、テクノロジー系に新出用語やひねった問題などもあったため、**全体の難易度は前回より高め**です。

このような問題では、用語の単なる丸暗記ではなく、テキスト学習及び過去問演習などを通して、各分野の用語やその特徴、長所・短所、計算の公式や解法パターンなどの幅広い知識を確実に身に付けているかが重要になります。それらの基礎知識を駆使して頻出テーマなどの易しい～標準的な難易度の問題を確実に正解していくことで、合格に必要な正答数を得られたでしょう。

3. 平成 30 年秋:午後試験の分析

今回の出題分野及びテーマは次のとおりです。問 2～4 では、前回外れた“ソフトウェア”が復帰し、ハードウェアが出題されませんでした。

問	分野	テーマ	難易度
1	情報セキュリティ	情報セキュリティ事故と対策	2
2	ソフトウェア	プロセスのスケジューリング	3
3	データベース	コンサートチケット販売サイトの関係データベースの設計及び運用	5
4	ネットワーク	ネットワークの障害分析と対策	3
5	ソフトウェア設計	購買管理システムで行う処理	3
6	プロジェクトマネジメント	プロジェクトのスケジュール作成	3
7	経営戦略・企業と法務	広告制作業務の現状把握と改善	4
8	データ構造及びアルゴリズム	整数式の解析と計算	3
9	ソフトウェア開発(C)	鉄道模型における列車の運行シミュレーション	3
10	ソフトウェア開発(COBOL)	社内資格の保有状況の管理	3
11	ソフトウェア開発(Java)	書式を表すひな形への置換表の適用による文書作成	3
12	ソフトウェア開発(アセンブラ)	日数の計算	2
13	ソフトウェア開発(表計算)	待ち時間の状況などの分析	3

注)難易度は5段階評価で、5が難、1が易を意味する。また、網掛けは必須問題である。

●必須問題(問 1: 情報セキュリティ) 難易度: 標準

情報セキュリティ事故と対策をテーマとした問題です。設問 1 及び設問 2 の空欄 a で、SQL インジェクション攻撃とその対策に関する知識が問われました。また、設問 3 は、WAF(Web Application Firewall)を知っていれば解けるものでした。設問 2 のその他の空欄については、文章のなかに「現状の問題点」が記述されていたので、それを的確に探し出せば、対応できたでしょう。午前試験対策で学習した情報セキュリティの基本的な知識があれば、容易に解答できる問題でしたので、難易度は易しめです。

●選択問題(問 2～7: 6 問中 4 問選択)

過去 7 回(平成 27 年春～平成 30 年春)の試験で「ハードウェア」と「ソフトウェア」の 2 分野のいずれかが外れる傾向が続いており、今回もこの流れに沿った形となりました。次に外れる分野の予想は難しいのですが、次の順で外れる確率が高いと予想します。

ソフトウェア または ネットワーク > ハードウェア ≧ データベース

今回の選択問題は、問 3(データベース)及び問 7(戦略)の難易度が高く、分野間の難易度の差が大きかったといえます。どちらも選択する予定でいた方が多いと予想された分野ですので、苦戦した方が少なくないと考えます。

・問2(ソフトウェア) 難易度：標準

マルチプロセスの問題です。設問 1 は、ラウンドロビン方式を用いた場合のプロセスの状態遷移のトレースでした。プロセスが一つしかないのですが、問題文の説明通りに実行状態から実行可能状態への遷移が起こることに注意すれば、解答は可能です。設問 2 は、優先度順方式を用いた場合のプロセスの処理をトレースする問題になっています。後半でプロセスの数が三つになりますが、最後までトレースしなくても解答を出せるので、時間はそれほどかかりません。標準的な難易度と判断します。

・問3(データベース) 難易度：難しめ

コンサートチケット販売サイトの関係データベースの表を扱った問題です。設問 2 の SELECT 文で内結合 (INNER JOIN) 及び外結合 (OUTER JOIN)、設問 4 の UPDATE 文で他分岐の CASE 式が出題されました。外結合と CASE 式は基本情報技術者試験では初出題となる文法ですので、ほとんどの受験者は未学習であったと考えられます。設問 1 の制約に関する問題も間違いやすい選択肢があり、易しくはありません。したがって、過去問題と比較して、これは非常に難しい問題であり、選択しない方が賢明だったでしょう。

aに関する解答群

	a1	a2
ア	INNER JOIN	決済表.決済額 = -1
イ	INNER JOIN	決済表.決済額 >= 0
ウ	LEFT OUTER JOIN	(決済表.決済額 IS NULL OR 決済表.決済額 = -1)
エ	LEFT OUTER JOIN	(決済表.決済額 IS NULL OR 決済表.決済額 >= 0)
オ	RIGHT OUTER JOIN	(決済表.決済額 IS NULL OR 決済表.決済額 = -1)
カ	RIGHT OUTER JOIN	(決済表.決済額 IS NULL OR 決済表.決済額 >= 0)

・問4(ネットワーク) 難易度：標準

ネットワークの障害分析と対策に関する問題です。与えられたネットワーク構成から、発生した障害や懸念される障害の原因分析や対策法が論点となっています。設問 1 の障害の原因を答える空欄にやや悩まされますが、その他の設問は問題文の記述をヒントに正解を導き出せたでしょう。難易度は標準的です。

・問5(ソフトウェア設計) 難易度：標準

購買管理システムで、更新依頼されたレコードの更新可否チェックをする処理を題材とした問題です。ツールとして、流れ図及び決定表が使用されていました。流れ図を苦手とする方は多いと思われますが、対象レコードを更新対象と更新対象外に振り分ける条件が主論点でしたので、それを把握できれば各設問に対応できたでしょう。見かけが難しそうに見えたかも知れませんが、難易度は標準的です。

・問6(マネジメント系) 難易度：標準

プロジェクトのスケジュール作成に関する問題であり、アローダイアグラムが出題されました。意外にもこれが初めての出題です。設問1は、クリティカルパスや総所要日数、ある作業の余裕日数などを問う問題であり、午前試験や問題集等で類似問題の演習を重ねた方ならば、正解を導き出せたでしょう。設問2のダミー作業の追加箇所を答える空欄で、作業内容の文章量が多いので、やや時間がかかってしまった方もいたかも知れませんが、それでも全体の難易度は標準的と考えます。

・問7(ストラテジ系) 難易度：やや難しめ

広告の作成に伴う広告原稿等の受渡し及びその電子化に関する問題でした。問題文のボリュームが多く、その細かい記述の中から各設問に関連する内容を丁寧に拾っていかねばならず、ちょっとした見落としでミスをする可能性がありました。全体的に時間がかかり、神経を使う設問が多かったので、難易度はやや高いといえます。

●必須問題(問8：データ構造及びアルゴリズム) 難易度：標準

整数式を解析し、計算するプログラムに関する問題であり、プログラムの空欄穴埋めがありません。ただし、数式の計算ですので、目的は分かりやすいものになっています。設問1が、整数式の解析部分のプログラムをどのように書き換えることができるか、が論点となっています。この手の問題に慣れていないと予想以上に時間がかかることもあるので、いったん飛ばして、設問2から解くのも一つの戦略だったでしょう。また、設問2では過去問題で論点になった箇所が今回も問われていましたので、その演習経験の有無で正答率及び解答時間に差が出たかも知れません。

プログラムの穴埋めがないタイプの問題では、自分で作った例や問題文の図の例でプログラムをトレースしてみることでヒントが得られます。したがって、プログラムを眺めて悩んでいないで、手を動かしながら問題を解くことができたかが、正答率に影響したと思われます。得手不得手が分かれるタイプの問題ではありますが、難易度としては標準的な内容です。

プログラム(解析処理の部分)の行①～④で用いている定数について考察する。

まず、行③及び④の処理では、定数として10を用いているが、この定数は10である必要はない。このプログラムにおいては、定数が a であれば常に正しい演算順序が保証される。

また、行①及び②の処理では、定数として1及び2を用いているが、次に示すように書き換えることが可能である。ここで、priLow及びpriHighは整数の定数を表し、その値は $\text{priLow} < \text{priHigh}$ とする。

①→ $\cdot \text{Priority}[\text{OpCnt}] \leftarrow \text{nest} + \text{priLow}$

②→ $\cdot \text{Priority}[\text{OpCnt}] \leftarrow \text{nest} + \text{priHigh}$

このように表現したとき、行③及び④の処理では、nestの値を増減する定数が b のときに限り正しい演算順序が保証されることになる。

●ソフトウェア開発(問 9～13 : 5 問中 1 問選択)

・C 難易度 : 標準

構造体配列を用いた鉄道模型の運行シミュレーションの問題です。落ち着いて説明を読めば分かりやすい設計思想であり、前半の空欄は比較的容易なので、0点になるリスクは低いでしょう。ただし、ポインタ参照の概念理解が不十分なまま受験した人には分かりづらかったかも知れません。また、空欄 d では再帰のイメージが必要となり、設問 3 のプログラム追跡(トレース)にやや時間がかかりますので、これらの空欄二つ分を時間切れで失う可能性もありました。それらを考慮しても、全体としての難易度は標準的です。

・COBOL 難易度 : 標準

上期または下期の資格合格者のファイルを用いて、マスタファイルとなる保有資格ファイルを更新するプログラムに関する問題です。設問1はプログラムの穴埋め、設問2、設問3がプログラム変更に関する問題になっています。プログラム変更の設問が例年より多いですが、元のプログラム自体が読み易い内容でしたので、影響は大きくないと考えます。難易度は標準的です。

・Java 難易度 : 標準

文字列置換の仕組みを実現するクラス群に関する問題です。説明文がやや分かりづらく一見難解そうだが、実際のプログラムはシンプルなので、そこから個々のクラスや変数などの役割を読み解きやすくなっています。「〇〇を実装(または継承)するクラスには2種類ある」というタイプの出題に慣れていれば、さらに解きやすかったと思われます。ただし、空欄 b と c はアルゴリズム的にどちらがどちらになるか混乱しやすく、二者択一で迷う人も多かったでしょう。単純な文法知識で埋められる空欄もあり、全体的には取り組みやすい問題といえますので、標準的な難易度です。

・アセンブラ 難易度 : やや易しめ

基準日から指定された日付までの日数を計算するプログラムと、その中で使用される“うるう年”を判定するプログラムに関する問題です。日数の計算では計算方法がイメージしやすいので、自分でなるべく簡単な例を用意すれば、よりプログラムを読み易くなったでしょう。また、うるう年の判定では、問題文に条件が書いてあるので、比較的解き易い空欄になっています。設問 2 でプログラムを変更していますが、プログラムの読解が適切にできていれば解答は可能でした。難易度はやや易しめと考えます。

・表計算 難易度 : 標準

店舗の窓口のサービスにおける待ち時間の状況などの分析に関する問題です。設問 1 及び設問 2 が関数を答える問題、設問 3 がマクロの穴埋めでした。空欄 b の関数が、少し混乱しがちな選択肢が並んでいましたが、ワークシートの例で式を作ってみることで解決できたでしょう。後半のマクロは長いプログラムでしたが、主に問われていたのが最小値を求める部分でしたので、解き易い空欄になっていました。

問題文の分量がやや多めでしたが、各空欄の難易度がうまく調整されていたので、全体としては標準的な難易度であったといえます。

4. 次回(H31 年春)試験の対策

【午前対策】

(1) テキストによる基礎知識の徹底

午前対策基本の流れ

インプット → アウトプット → 再インプット

(2) 学習範囲が広いので、計画を立てて進めること！

テクノロジー：理系的なコンピュータ関連の技術系 だけでなく、
ストラテジ、マネジメント：文系的な経営戦略や企業会計、マネジメントも学習

(3) 易しい～標準的な難易度の問題を、確実に正解できるように仕上げる

テキストに載っている用語や、よく出るテーマの問題を重視する。
今回の初出題テーマなどの難問は、全員が難しいので、そこでは差が出ない。

(3) 広い範囲の過去問題演習 = 知識の定着



解いて解いて解きまくれ!!

セキュリティマネジメント試験の過去問題も演習に加えるといいね。

(4) 間違い選択肢の最大活用！

正解して終わり！では、他の選択肢がもったいない。

① 用語の問題

正解以外の用語を説明してみる。説明できなかったならば、再インプット！

⇒ 1つの問題で、4つの用語を確認できる

② 正誤の問題

正解以外の選択肢が適切でない根拠は何？

⇒ 1つの問題で、4つの知識を確認できる

(5) 計算・事例問題の攻略

- ・平成30年秋は多かった ⇒ 次回も多いかも知れない。
- ・ある程度、点が取れるようにする ⇒ 解法パターンを覚えよう！
- ・公式を覚え、易しい問題で使用してみる。そこから計算のパターンを掴む
 - ⇒ 「単位をそろえる」などの注意点の確認
 - ⇒ より難しい問題で応用力・解法パターンを身につける



**易しい～標準的な難易度の問題を
確実に解けるようにしよう!!**

【午後対策】

(1) 情報セキュリティ

情報セキュリティは、午前試験において 80 問中 10 問という高いウェイトを占める分野ですし、午後試験でも必須問題となっていますから、最重要分野といえます。その対策としては、単にセキュリティの用語を覚えるのではなく、その目的や用途、運用方法、設定上の注意点、メリットとデメリットなどの関連知識まで含めて知識習得しておくことが望ましいといえます。

まずは、出題実績が多く、それをメインで問題が作られることもある

暗号化技術、認証技術、ファイアウォール

といった技術面に主軸をおいて午後対策を始めましょう。

また、ISMS やセキュリティ基本方針・対策基準の内容などのセキュリティマネジメント関連についても、一通り理解しておきましょう。特に、最近の傾向にみられる

不正な攻撃とその対策(ブルートフォース攻撃、SQL インジェクションなど)

は完璧に覚えてください。両方を融合させてくる最近の問題に対応できるように、得意不得意をなるべく無くしておくことです。

(2) 選択問題の対策も非常に重要

選択問題 4 問で午後全体の配点の 48% を占めますから、このブロックの得点力は非常に重要です。このブロックである程度得点できないと、合格が難しくなってしまいます。

まずは、午前対策をしっかりと行うことで、必要な基礎知識を確実なものにしましょう。これらの知識は、午後問題を解くうえでの「知識ベース」や「鍵」となります。

次に、問題集や過去問題等で、分野ごとの様々なテーマの問題を演習することです。それにより、長文問題の読解力、出題パターン、解法、応用的な計算問題への対応力を養うことが重要です。安定した得点力を身につけるようにしておきましょう。



予備を含めて必ず 5 分野を選び、それらに集中して対策する!!

データベースは出題テーマが絞れるので対策はしやすい!!

CREATE, INSERT, DELETE, UPDATE も要確認!!

ただし、

今回、外結合が出題されて、難しくなった。

選択する場合、予備分野の保険は必須である。

ソフトウェア設計：最近の過去問演習 + 古い問題!!

UML (クラス図, シーケンス図など)

テストケース設計, E-R 図, 流れ図, ファイル処理など

ネットワークは人を選ぶ!! 得意な人でなければ危険。

(3) アルゴリズム・データ構造の必須知識

最大値（最小値）・探索・整列・文字列照合・文字列置換といった基本アルゴリズムの処理の流れは、必ず知っておかなければならないテーマです。また、この学習の中で、初期化やループの条件、配列操作、文字列操作などの理解を深めておきましょう。

データ構造（リスト・スタック・キュー・木構造）の“実装”と“操作”も非常に重要なテーマです。データ構造はプログラム言語の問題でも扱われますし、データ構造の操作方法の知識があるかないかで正答率、解答時間に大きな影響が出ることがあります。



**早めに始めよう!!! 午前対策の途中から並行して進める!!
後半の演習訓練時間をなるべく多く確保する必要もある。**

(4) 擬似言語及びプログラム言語の応用演習

午後対策では、配点の高い擬似言語とプログラム言語の対策が重要となります。また、言語の問題を解くためにも、アルゴリズムの力が必須でしょう。どちらも演習問題を数多くこなすことが最も有効な学習です。(1) の学習や言語の文法を学習した後、さまざまな応用問題を解き、さまざまなアルゴリズム（プログラム）に触れることが必要です。



1 問でも多く演習 !! かつ 解法をしっかりと理解しよう !!



言語ごとによく使う特徴的な処理を理解し、身につけよう !!

また、今回のアルゴリズムの問題も含めて最近の出題傾向を見ると、今後もトレースの力が重要であるといえます。ただ問題を解くのではなく、いろいろなトレースを試してみることが効果的です。



普段の学習・演習のときから「トレース」を練習 !!

(5) 表計算

表計算では、絶対参照/相対参照、各種関数を学習したならば、直ちに応用演習に入りましょう。問題集などを利用して、なるべく多くの演習を積みながら、計算式の作成、関数の使用法に慣れることです。このとき、整数部、剰余、切上げといった数値操作を行う関数も重要視しておくようにしましょう。



まずは、計算式を入れる空欄で点が取れるように !!

また、マクロの対策としては、「相対表現」の使用法をまずしっかりと身につけてください。それ以外は、「アルゴリズム」の力が必要になります。

(6) 時間配分戦略

本番で実力を発揮するためには時間配分戦略が非常に重要となります。ある程度解けるようになってきたら、通常の演習においても、各問に目標時間を設定し、時間内に解く練習をするべきです。

以下に、時間配分の例を示します。

情報セキュリティ	: 15 分	
選択問題 4 問	: 各 15 分	
アルゴリズム	: 30 分	
プログラム言語または表計算	: 30 分	
合計	: 2 時間 15 分	残り時間 : 15 分

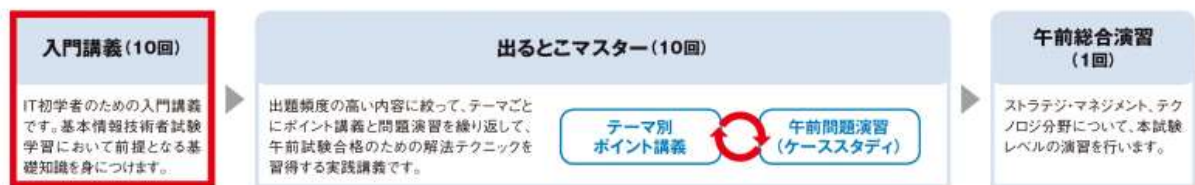
(7) T A C 講座へのご案内

基本情報技術者は学習範囲が広く、覚えるべき項目(専門用語や公式など)が多い試験です。独学でやろうとすると、「学校の課題で忙しい」、「仕事が忙しい」、「今日くらいはいいや」となってしまう、どうしても計画どおりに進められないことが多いです。その結果、「試験に間に合わない!」「試験が近いのに、午前も午後もテキストすら終わっていない」というパニック状態におちいってしまいます。

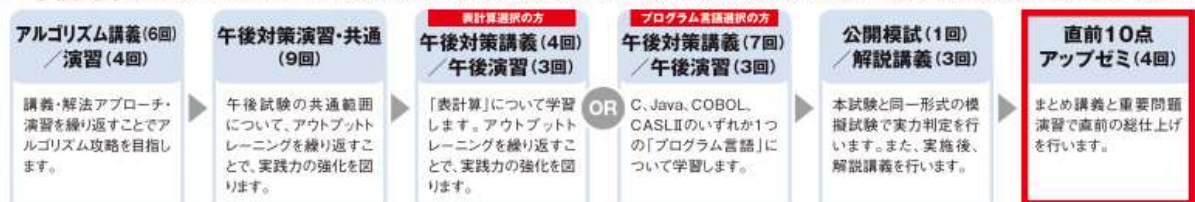
そこで、そんな危険を感じる人には、TAC で実施している「基本情報技術者講座」の受講をお勧めします。講座では「オリジナル教材」を使用して、講師の迫力ある講義、テスト、質問フォローなど合格に必要なすべてがパッケージされていますので、**短期間に無駄なく、効果的に、しかもペースを守って学ぶことができます。**

(T A C 基本情報技術者 本科生プラスのカリキュラム)

▶ **午前対策(全21回)** オリジナルテキストを使用して、午前試験対策に必要な基礎知識を学習します。



▶ **午後対策(全34回or全37回)** 午後対策は表計算またはプログラム言語(4言語)より選択が可能です。公開模試は本試験直前の弱点把握や実力判定に最適です。



●合格のためのアドバイス

- ・毎回の講義を絶対に欠席しないこと。欠席した場合はフォロー制度を利用して、早めに挽回すること(学習ペースを崩さない)。
- ・復習を中心とした自己学習をテキスト・問題集でしっかり行うこと。
- ・疑問点は講師に積極的に質問しましょう。
- ・「継続は力なり！」諦めないこと。
- ・本試験問題を数多く解きましょう。
- ・試験勉強を生活のリズムの中に組み込みましょう。
- ・楽しんで学習しましょう！

